

平成30年度学校自己評価システムシート (埼玉県立越谷特別支援学校)

目指す学校像	自立する力を育て、一人一人の児童生徒を伸ばし、保護者や地域の期待に応える学校
--------	--

重点目標	1 キャリア教育と自立活動双方の観点で踏まえて、教育支援プラン及び指導計画等を見直し、授業の充実を目指す。 2 保護者・地域への情報発信とセンター的機能を充実させ、開かれた学校作りを行う。 3 教育力を高める教育環境作りに向けて、児童生徒が健康で安全に学べる環境整備を行う。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標			年度評価(2月1日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> 自立活動専任、外部専門家、保健室、ケアルーム等の特別支援教育の専門部門と連携しながら、個々の教育的ニーズに応じた「わかるできる」意欲を育む授業を実践している。この実践を通し、キャリア教育の研究も5年目のまとめの年を迎え、育てたい力の指標試案を作成した。この指標を基に育てたい力を検証する。 各類型の教育課程において小中高の系統性や学年の関連性について課題が出ている。授業研究等を通して課題解決に向けた検討をしていく。 訪問教育においてもキャリア教育と自立活動双方の観点で授業展開を進めている。 寄宿舎においては日頃から児童生徒の実態把握に努め、舎の生活と学校生活をつなげる努力をしている。キャリア教育の観点からも系統性を検討する視点としていく。 来年度までの2年間において新学習指導要領を研究し、これからの10年間を描き、教育課程の編成を進めていく。 	(1) 児童生徒一人一人の成長を実感できる授業づくりを行う。	①教育支援プランの領域教科等の目標を具体化させ、各目標とリンクさせた授業を行う。 ②授業研究を通し、各教員の実践力を高める。 ③教員間の共通の視点で評価し、次の授業につなげる。	①具体的に目標が設定できたか。指導案に盛り込んだ授業になったか。 ②他の授業を見学できたか。自分の実践に活かそうとしたか。 ③教員間で課題や目標を共有し、適切に評価できたか。授業につなげられたか。 ※保護者アンケートも活用		
		(2) 新学習指導要領を踏まえた教育課程の改善を行う。	①授業研究を通し、12年間の系統性、育てたい力を検証する。 ②類型会議において類型内の課題を整理し課題検討を進める。 ③教育課程検討委員会を中心に、学校教育目標、目指す学校像の検討を行う。	①育てたい力の系統性が検討できたか。 ②授業研究を通し、類型の課題を整理できたか。検討が進められたか。 ③新学習指導要領を学び合えたか。将来構想を描き、学校教育目標と目指す学校像について検討し、具現化することができたか。		
2	<ul style="list-style-type: none"> 月例に加え対象を絞った学校公開や連絡会を実施し、校内外HPの更新と併せて、広く学校の情報発信に努めている。また、支援籍学習や地域の学校との交流会も実施している。今後も地域資源を積極的に活用するとともに、地域の特別支援教育の理解啓発に努めていく。 保護者に対し、教育支援プランの作成、授業参観等を通し、合理的配慮の提供や説明責任を果たすべく努力している。面談方法や引継ぎについて保護者から指摘があった。常に工夫改善に努め、今後も課題意識をもって取り組む。 訪問教育においては通信、スクーリング等での交流学級との交流を行っている。 寄宿舎においては保護者連絡会、開閉舎会等の各種行事を通し、保護者連携や地域との交流を行っている。 	(1) 児童生徒をリスクベクトルし、保護者の願いを踏まえた教育実践を行う。	①保護者の願いを受けとめ、適切な合理的配慮を提供する。 ②授業参観や面談等の工夫を行い、説明責任を果たす。 ③学級、類型等において情報共有を図り、チームとして対応していく。	①十分に意見交換を行い、指導につなげられたか。 ②効果的な方法を見出せたか。 ③常にチームとしての対応ができ、指導につなげられたか。 ※保護者アンケートも活用		
		(2) センター的機能を果たし、地域との連携を密にした教育活動を行う。	①支援籍学習や交流会を積極的に進め、児童生徒の自己肯定感を高めていく。 ②伝わりやすいHP構成を工夫する。 ③地域資源の掘り起こしを行い、活用を見出す。 ④学校公開や連絡会等を工夫し、本校及び特別支援教育の理解啓発を促進する。	①交流等から学んだことが本校での生活や学習に結びついているか。 ②どんな工夫ができたか。 ③どんな地域資源を見出せたか。 ④積極的に情報発信ができたか。		
3	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の安全点検、各種訓練、様々な安全健康指導面に関する研修会の実施、毎日の学部朝会での情報交換等を行い、危機意識をもちながら指導にあたっている。引き続き重大事故0をめざしていく。 安全に関して関係部署の業務内容や連携を確認し、危機管理対応を昨年度から再構築している。また、危機管理マニュアルを再整備した。危機意識を向上させ、迅速な対応を心がける。 訪問教育、寄宿舎においても、危機管理マニュアルに沿った訓練等を行い、非常事態に備えている。 	(1) 安心安全な学習環境を整え、重大事故を防ぐ。	①事例提供や研修、訓練等を通し、日頃からの危機意識を向上させる。 ②常に教材教具や備品の整理整頓を図り、学習環境の整備を心がける。 ③ヒヤリハット、事故報告をチームで分析し、事故防止に活かす。	①様々な研修等を通し、日常の指導に活かされたか。また、いざという時の対応ができるか。 ②安全点検日のみならず毎日の点検、指導上の確認ができたか。 ③報告連絡相談が迅速にできたか。事故等の対応を次の指導に活かされたか。 ※保護者アンケートも活用		

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等	